

京都党の提案で次々**前進**

前進!

病児保育所の拡充!

病児保育所の地域偏在と拡充、また利便性の向上を訴えてきました。その結果、現在の8カ所から10カ所と新たに2施設が開設されることとなりました。さらに空き状況をパソコンやスマホで確認できるサイトも開設されます。



前進!

救急安心センター「#7119」の開設!

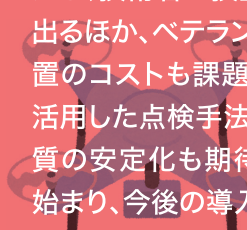
急な病気や怪我で救急車を呼ぶべきか迷った際、「119」に電話する前に医師等の専門家に相談できるダイヤル「#7119」が開設されることが決定しました。緊急性の有無(救急車が必要か)だけでなく、応急手当の方法や適切な医療機関の案内等のアドバイスが受けられます。



前進!

橋の点検にドローン活用!

京都市が管理する橋は市内に2900箇所あります。安全のため点検が義務付けられており、目視や直接ハンマーで叩いて音を確認するなどの手法が取られています。しかし、技術者の技量によって判断に違いが出るほか、ベテラン技術者の不足や足場設置のコストも課題であるため、ドローンを活用した点検手法を提案しました。点検の質の安定化も期待です。京都市で実験が始まり、今後の導入に向けて期待です。



質 疑 摘 録

地域政党 京都党 市会議員団

スタートアップ(起業)支援には規制緩和を!

近年、海外のスタートアップ(起業)支援団体が複数、京都市内に拠点を構えたこともあり、市内に起業家が集まり始めました。京都大学をはじめ研究機関や優秀な人材が元々多く集積していた強みもあり、イノベーションが起こりやすい環境が整いつつあります。京都市も予算をつけて応援するスタンスで非常に良い流れとなっています。更に、支援を後押しすべく、「国家戦略特区」制度を使った規制緩和をすべきと提案しました。東京都や福岡市など、従前より起業支援に力を入れている都市は、規制緩和に積極的で、それがまた新たな起業家を引き寄せるという好循環を生み出しています。創業における規制に留まらず、例えば人材確保における規制を緩和するなどの後押しを期待したい。(令和2年予算特別委員会第3分科会)



LINEで児童虐待相談を!

子どもが被害者となる痛ましい事件が全国的に発生し、児童虐待に関する社会的な関心が高まっています。京都市では、平成30年度の虐待に関する相談・通告件数は2128件であり、前年度と比べると412件も増加しています。児童虐待は何よりも早期に発見し対応することが重要です。深刻なケースになる前に解決することで、子供たちの尊い命を救うことができます。そこで東京や大阪で導入されているLINEを活用した児童虐待相談窓口を開設することを提案しました。LINEというアプリは、日本国内で8000万人以上が使用しています。現在京都市では電話での相談窓口はありますが、若い世代の親や子供が使い慣れたツールを活用することで相談のハードルを下げ、早期発見や未然防止につなげるべきだと考えます。(令和2年予算特別委員会第2分科会)



徹底した行財政改革で財政危機打開を!

本年度当初予算案の概要では、新規140事業、充実36事業が計上されていますが、300億円の収支不足がある現状で、さらに収支バランスの悪化を招くことは必至です。ゼロベースで支出を見直し、費用対効果の低い支出、緊急性の無い支出を大幅にカットしてスリムな予算にすることを求めました。例えば、市の広報については、総合的な見直しを行い、編集から配布まで可能な限り民間業者へ委託すると共に、NHK、民放、地域コミュニティFM放送局、インターネットを活用するなど、紙媒体中心主義からの脱却を図ることを提言いたします。また、各種補助金についての総点検、職員給与体系、昇格制度の改革を検討していくことを求めます。やる気のある有能な職員が能力を発揮できるように、思い切った制度の改革が必要だと思います。民間企業出身者による人事・研修制度の再検討を行うよう提言しました。(令和2年2月代表質疑)

